



の長い間勤めていただいた方である。

生が昭和に？」と尋ねられることがしばしばであった。

「先生は多くを語る方ではありませんでした。しがし語る言葉は少なうでもその存在感は多くの言葉を必要としなかったのだらうと思います。加えて、大きな存在感の陰では実にきめ細かな気配りをされておられました。もう、先生のような秀でた教育者は出ないのではないかと思っております。」

残念ながら大分県は公立志向の強い県で私立高校はまたまた低く見られることが多い。これまで思わぬところで悔しい思い

言外に「意外だ」「あり得ない」といったニュアンスに聞こえたものである。私はそんな質問には「昭和だから来られたのです」と応じたものであった。

悼

先日、学園の創立者らを追悼

これは九月十五日の葬儀で読んだ弔辞の一部である。先生とは大分県の教育界に多大な功績を残された手島誠一先生のこと

追



草野 義輔

する校父母祭というわが校独自の行事が行われたが、今年には特別に手島先生の遺影を供え、八百人の生徒と教職員全員でお参りすることができた。

と想っております。」

をしたことが幾度もあるが、公立教育行政のトップを歴任した人が日田市の一私学の校長にな

手島先生の偉大さは公立私立を問わず、一緒に働いた人たちが例外なく尊敬し、敬愛してやまない、という事実に戻さることを思う。享年八十五歳。合掌。

（日田市・昭和学園高校理事

に県を退職し、縁あってわが昭和学園に校長として十四年間も

られなかったことであつたので、わが校の校長に着任されたことが知れわたるといって手島先

長）